

東京の観光振興を考える有識者会議
議事録

平成30年8月1日（水）
都庁第一本庁舎7階中会議室

【小沼観光部長】

お待たせいたしました。定刻となりましたので、これより東京の観光振興を考える有識者会議を開会いたします。

本日は、お暑い中、また、御多忙にもかかわらず御出席いただきまして、まことにありがとうございます。

私は、事務局を務めさせていただきます東京都産業労働局観光部長の小沼でございます。議事に入りますまで、しばらくの間、進行役を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

初めに、本日の委員の皆様の出欠状況について御報告させていただきます。

本日は、委員14名中11名の皆様に御出席いただいております。出席者につきましては、座席表の配付をもってかえさせていただきます。

次に、資料の確認をさせていただきます。本日の会議はペーパーレスで行います。お手元には議事次第と座席表、資料1としまして委員名簿をお配りしております。その他の資料2、資料3及び田川委員、牧野委員から御提出いただきましたプレゼン資料は、卓上のタブレット端末でごらんいただくこととなります。よろしく願いいたします。

それでは、この後の議事進行につきましては、本保座長にお願いしたいと思います。よろしく願い申し上げます。

【本保座長】

どうもおはようございます。よろしく願いいたします。

それでは、初めに、知事から一言御挨拶をいただきたいと思っております。

【小池知事】

皆様、おはようございます。

お暑うございますが普通の御挨拶になっているぐらい、ことしは大変暑うございます。これがもう普通の温度なのかなと思って、特にオリンピック・パラリンピック、いろいろ想定しながら対策を練っていこうかと思っております。

きょうはお集まりいただいて、ナイトライフということに焦点を当てまして、皆様方の御意見を頂戴することになっております。夜の時間、これは東京の資産というか資源が十分生かされていない一番大きな部分だと思います。いろいろなイベントがあっても、もう町が、電車が終わってしまっている。その後、どこに行けばいいのですかという、そのようなことでとても残念な状況になっております。それから、最近はお買い物に来る方だけではなくて、何かコトを、お茶碗を一緒につくったりとか、お茶をたててみたりとか、コト消費というのが大変広まってきているという話も聞いております。そういったことから夜の時間で稼ぐ。そして、夜の時間をにぎやかにして、さらにそこでプラスの観光客を呼び込んでいく。このことについての御意見を頂戴したいと思います。

都としましても、例えばライトアップに予算をつけまして、東京の橋もきれ

いな橋がいっぱいございますので、そこをライトアップしたり、また、さまざまな施設のライトアップもようやく定着し、それをさらにふやしている途中でございます。それから、都立の博物館や美術館、動物園、それぞれ開館時間の延長などにも取り組んでおります。

また、きょうは田川委員から、旅行業界の発展、そして観光産業の未来に対しましての政策提言と同時に、実際に御努力しておられますので、ぜひ現場の声、そして理想などについて伺わせていただきたいと思います。

牧野委員からは、トリップアドバイザーの代表取締役としてのさまざまな知見についてプレゼンテーションを賜りたく思います。

2020年、またその先を見据えまして、夜のにぎわいをどうつくっていくのかという、とても原点に近いようなテーマではございますが、こここそ生かすべきだと思っておりますので、どうぞきょうもよろしく願いいたします。

また、江戸から東京に変わって150年でございます、東京150周年グッズなどをいろいろつくっております。田川さんは東京だから、これは覚えていらっしゃいますか。カップ。これはとても人気で、もう一つ新しいバージョンもあるのですが、このバッジをつけているといろいろな都の施設が無料で入れるとか、それからこれはカレンダーもございまして、ジグソーパズルなどもございますので、お楽しみいただければと。

いろいろなことを考えながら東京を売り込んでいきたいと思っております。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

【本保座長】

知事、どうもありがとうございます。

知事におかれましては、所用のため、きょうはここで退席されるということでございます。

【小池知事】

よろしく願いいたします。

(小池知事退室)

【本保座長】

それでは、本日の進め方について御説明をしたいと思います。

初めに事務局から、本日のテーマである「ナイトライフ観光」に関する都の取り組みについて資料の説明をお願いしたいと思います。

引き続き、今、知事からお話がありましたように、きょうのテーマについて、田川委員、牧野委員からお一人10分めどでプレゼンテーションをお願いしたいと思います。その後、議論ということになりますので、よろしく願いいたします。

では、事務局のほうで資料の説明をお願いいたします。

【鈴木観光振興担当部長】

承知いたしました。事務局のほうから、現在、都が行っておりますナイトライフ関連の施策について御紹介させていただきます。資料2でございます。

まず、地域、民間における取り組みへの支援、これは補助金を中心となりますけれども、昨年度、29年度から行っておりますライトアップ支援。小さな写真で恐縮でございますけれども、例えば東武鉄道の隅田川の橋梁といった建造物のライトアップや、目黒川の桜といったイベントのライトアップの支援を行っております。

また、右側、今年度、30年度からの新規事業で具体的な案件はまだこれからでございますが、プロジェクションマッピングの支援ということで、イベントでの活用であるとか地域のにぎわい創出のための継続的な活用などについて、今後、御支援をしていきたいと考えております。

また、下側、都みずからの取り組みでございますが、今、知事からも挨拶の中にございましたが、都立の博物館・美術館につきましては、ふだんは17時半とか18時が閉館の時間でございますが、夏休み期間中の毎金曜日につきましては21時まで延長し、例えば夜のミニコンサートなどもあわせて実施しているところでございます。

また、右側、都立の動物園・水族館につきましても、お盆期間中は20時まで延長し、あわせて期間限定のイベントなども実施しているところでございます。

次のページでございます。国内外への情報発信といたしましては、東京の観光公式サイト「GO TOKYO」におきまして、ライトアップなどの事例を発信してございます。また、真ん中、昨年度、ライトアップや夜景スポットを紹介する冊子を4カ国語で発行し、今年度、さらにその内容を充実して発行していきたいと考えております。また、都内のナイトライフ観光を楽しむモデルルート、こういったものも作成して発信していきたいと考えているところでございます。

最後、下段でございますけれども、ナイトライフ観光の現状を把握するための調査を今年度、実施しているところでございます。都内のこういった地域に日本人や外国人の方が滞在しているかなどの現状把握であるとか、日本人や外国人の方が東京のナイトライフに何を求めているかといったニーズの調査。また、ロンドン、ニューヨークなどの海外の先進事例の調査。こうしたものをいろいろ把握する調査をやっているところでございます。

こうした現状調査を行うとともに、本日、各委員から頂戴する御意見を踏まえながら、今後のナイトライフ観光に関する施策の立案を行っていきたいと考えております。

事務局からは以上でございます。

【本保座長】

ありがとうございました。

それでは、プレゼンテーションに入りたいと思います。
では、まずは田川さんから、およそ10分でお願いします。

【田川委員】

改めまして、おはようございます。

きょうはパワーポイントがありますから、その順番に10分間でお話をしたい
と思います。

まず、スライド2とスライド3は、今、東京の置かれている現状を書いてい
ます。これは一般論として皆さんに知っていただくということなので、あえて
説明はしませんが、ピンク色のところは何しろ文化・交流が4都市では一番低
い評価を得ているということを示しています。

次のスライド3は、日本のナイトライフはつまらないと外国人から言われて
いるのですけれども、正直申し上げて、私、日本人でもつまらないと思ってい
ますので、別に外国人から言われる筋合いだけではなくて、我々もそういうふ
うに思っている人はたくさんいるのではないかと。昔のほうが楽しかったなとい
うような思いがありますので、そういう意味では、ナイトライフ観光というか、
文化・交流の活性化はしっかり果たしていく必要があるのではないかと。特に、
私も都民でありますけれども、都民にとって東京の夜が楽しいというのが一番
基本ではないかと思えます。

スライド4に、東京都が従来やってきた、今お話があったようなことが出て
おりますけれども、総合的に言うと、個々の施策をばらばらに行うのではなく
て、ナイトライフ観光を体系的に整理して、実施する必要があるのではないかと
思っています。

ここまでが大体、全体的なお話であります、これから私の意見を少し申し
上げたいと思います。

スライド5です。キーワードは「住んでいる人、訪れる人が楽しめるナイト
ライフ観光」と。住んでよし、訪れてよしというのが観光立国の基本にありま
すけれども、まさにナイトライフもそういう視点をしっかりやるためには、住
んでいる人にとっては異日常であるし、訪れる人にとっては非日常、この2つ
をどうやってしっかりと対応させていくのか。都民のナイトライフの充実も東
京都は考えていく必要があるのではないかとというのが大きな枠組みであります。

そこで、ちょっとマトリックス的に、スライド6で、ナイトライフ観光は大
きく来訪者向けか、生活者向けかという視点を入れて整理してみました。個々
に書いてあるものが幾つかありますけれども、こういうものを体系的にしまし
たりとやっていく必要があるのではないかと思えます。

先ほど言いましたように、昔はシャンソンバーがあったり、ロックバーがあ
ったり、いろいろな飲み屋街がたくさんあって楽しかったのですけれども、風
営法の話があって全部なくなってしまっていて、夜は遊びに行けない。今の若者は

どこに行っているのかなという感じがしますが、私たちが若いときにはそういうものがあつたと思います。そういう意味では、異日常と非日常を整理して、そういうアイテムを整理しておく必要があるのではないかと思います。

そこで1つの御提案は、私は日本エコツーリズム協会の会長を今年から引き受けていますが、このエコツーリズム協会が出した、自然と人の営みを表したフェノロジーカレンダーというものがございまして、それに基づいてナイトライフ観光もカレンダーで整理して、一年中どこでも何でも楽しめる、そういう整理を一旦する必要はあるのではないかと思います。

私は、四季折々というのが本当は一番大事だと思っていまして、本当にお正月の時期に日本の初詣など、日本のいろいろなお正月の催しを日比谷公園でやったらどうかとか、そういうアイデアを持っています。京都も冬だけは訪れる人が少なかったのですけれども、「京の冬の旅」という旅行企画商品をつくる時も、特定のところを見に行く、「凜とした寒さを見に行きませんか」というキャッチフレーズを付けたのですが、今でももう三十何年、「京の冬の旅」をし続けている。私はつくり手ですが、そういうのをやってきました。そういうものも考え方としては必要ではないかと思います。

こういう具体例を3つばかり、8ページ、9ページ、10ページに用意しました。1つはツーリズムEXPOジャパン、今、私が実行委員長をやっています、日観振とJATAとJNTOがやっているイベントですけれども、これまでいろいろと公道を使ったナイトライフ観光を日本橋であるとか東京駅の前でやってきました。たくさんのお客様が参加していますが、これは一過性でありますので、こういうものを定期的にできるような仕組みをつくるとか、2つ目の9ページには、JTBが独自に浜離宮で昨年テストとしてやりました。石井さんのお母様に大変御協力いただいてライトアップして、小学生以来、久しぶりに浜離宮に入りましたけれども、こんなに浜離宮は狭かったのかという印象を受けました。そして、周りにビル群が覆うように見えて景色が変わってしまったのですけれども、こういうものも定期的にやったらどうか。10ページには、私どもがやっている「万華鏡-MANGEKYO-」という新しい太鼓のショーがあるのですけれども、こういうのもなかなかやる場所とかスポンサーがないのですが、定期的に年間200~300回ぐらいの公演をしてお客様に知らせていく。そういうチャレンジをしているという事例が8ページ、9ページ、10ページであります。

11ページにナイトライフ観光のその他の事例として、昼間にぎわっている商店街、あるいは有楽町の高架下。この間、テレビで高架下の居酒屋の話がありましたけれども、私は多分これから、地方の場合には必ず商店街の活性化というのがナイトライフのキーワードになっているのですけれども、東京でも、そういう意味では商店街の活性化というのが重要な要素を占めているのではないかと。とげぬき地蔵のある巣鴨とか、あるいは戸越銀座とか。こういう商店街と

というのは、雰囲気だけではなくて、町の井戸端会議という一つのあらわれの場所なので、そこに住民の文化が集まっているので、ぜひともこういうものをやっていく必要があるのではないかと考えています。

したがって、スライド12に、住んでいる人、訪れる人が楽しめるようなナイトライフ観光を実現するためには、都と民間が協力して、6つ書いてありますけれども、場づくり、夜間のバス停の問題とか夜のまちづくり。私は、きょうはインフラの話はしませんが、こういう考え方の整理を一旦しておく必要があるのではないかと考えています。

最後のページ、スライド13に、1万6,425時間、これは何かというと、ここに書いてあるとおりなのですけれども、こういう時間をいかに充実するためにやるか。今、都が進めているプレミアムナイトタイムというのも大いに進めていく必要があるのではないかと。外国人に対する新たな夜の過ごし方の提案と、都民に対する新たなライフスタイルの提案。こういうことをあわせて、東京都全体が世界に冠たる町になると思っています。ニューヨークやロンドンやパリにしょっちゅう行っていますけれども、そういう意味では町ぐるみで全体的に、昼、夜も含めて、スポットでコンテンツを何かするというよりも、全体で楽しめるような雰囲気を醸し出す。こういうことはすぐにはできませんが、ワールドカップラグビーやオリンピックの期間にテストをして、2020年、また2021年からの10年間そういうものを充実させていく、そういうスケジュールが必要なのではないかと考えております。

私のプレゼンテーションは以上であります。ありがとうございました。

【本保座長】

どうもありがとうございました。大変体系的で、かつ具体的な提案もあり、勉強になりました。

それでは、続きまして、牧野委員、お願いいたします。

【牧野委員】

牧野です。私からはトリップアドバイザーというサービス上で、外国人が楽しんでいるものが何であるか御紹介します。

まず、簡単にトリップアドバイザーについて御説明させていただきます。世界で旅行の口コミサイトの提供しており、約4億5,000万人の方々に毎月利用いただいています。世界から日本や東京を訪れる観光客も利用していて、どの国や地域から日本の情報を閲覧しているかの比率はこのような形となっています。日本と東京を比較してみると、東京はアジア圏が若干低く、欧米豪の比率が高いことが特徴となっています。

これを国別で見たものが次のページになっておりまして、日本と東京の情報を見ると、日本全体ではアメリカ、中国、台湾が上位3カ国になっていますが、東京ではアメリカ、オーストラリア、シンガポールが上位になっています。こ

れからトリップアドバイザーのデータに基づいたお話をさせていただきますので、まず、利用状況についてお話しさせていただきました。

続いて日本を訪れた外国人観光客が夜の時間に何を楽しみ、評価しているかについて2点御紹介させていただきます。

まず1点は観光スポット、施設に関してです。施設を見てみますと、ロボットレストラン、マジックバー、コメディショーといったエンターテインメントのショーを夜間に楽しみ、かつ高く評価しているということがわかっています。特にロボットレストランやマジックバーは言語に関係なくノンバーバルという形で楽しめるショーです。

2点目は体験型についてです。外国人の体験型観光で人気があるのは、「シティーツアー」という町の中をめぐるようなツアーになるのですが、日没後もやはり同じようにシティーツアーが楽しまれており、カートで回るようなものであったりとか、食べ歩きフードツアーであったりとか、ローカルの人たちが行く日本語のメニューしかないような居酒屋を訪れるツアーが人気になっています。

ご紹介したのはあくまで日本での現状です。日本を訪れる外国人観光客は当然ながらほかの国にも訪れています。彼らがそれらの他国で何を楽しんでいるのかを知ることは、日本でナイトライフ観光を考える上でもヒントになるのではないかと思いますのでお話しさせていただこうと思います。トリップアドバイザーの子会社でビアターというアクティビティや着地型ツアーを販売しているサービスがあり、このデータをもとに御紹介させていただきたいと思います。

こちらはアメリカのユーザーが2017年にトリップアドバイザー上で見ている海外の人気観光都市一覧となっていて、東京は13位に入っていますが、海外に行く方々は、パリとかロンドン、ローマ、といった世界的な観光都市にも訪れていることがこのデータでわかります。

他国で外国人観光客に人気があり、かつ夜間に楽しんでいるものとしては大きく2つあり、アトラクションのチケット、特に展望台で、もうひとつはクルーズです。

ニューヨークの展望台が最も売れていますので、これを東京の提供状況と比較して見てみると、営業時間はさほど大きな差がないのがわかります。大きく異なるのは、施設がチケットの販売をオンラインで提供していることです。東京ではどの施設も提供していません。また、東京は料金がかなり安く、ニューヨークとの差は最大で4分の1ぐらいの料金になっています。ナイトライフ観光を考えるときに、訪日外国人に楽しんでもらうのはもちろんですが、観光消費の増加を考えたとき、料金設定についても考えなければいけない課題の一つであることがわかります。

もう一つ、東京と世界の美術館・博物館についても比較してみました。先ほど夏の夜間公開についてお話しされていましたが、それを踏まえれば美術館・博物館の夜間の営業時間に関しても、実はそれほど大きな違いはありません。こちらと同じく、施設ごとにオンラインでのチケットの販売をしていないというところが、世界の美術館・博物館と比較したときの違いになります。

もう一つクルーズのお話をしましたが、クルーズに関しても比較すると、東京にもクルーズは販売されていますが、夜間でのクルーズはディナークルーズか屋形船になっており、夜景を楽しむクルーズなど他の観光地と比較すると足りません。東京都が水辺の活用を進めるあたり、様々な形のクルーズの提供は検討できることかと思えます。

先ほど展望台や美術館でのチケットのオンラインでの販売状況についてお話ししましたが、参考までにピアター上で販売しているオンラインチケットの商品数を東京、ニューヨーク、ロンドン、パリで比較した時に、東京の販売商品数は半分以下となっています。体験観光の商品を充実していくことはもちろんのこと、世界から訪れる旅行者が観光情報を探しているときに、簡単に見つけられて、かつ購入できるような流れをつくることも同時に大事です。

あと2点、ナイトライフ観光に関して課題になる点を私見としてお話しします。まず、東京は日没時間が早いというのが率直に個人的にも思うところです。これはちょうど8月1日ときょうの日付の日没時間と日の出の時間です。ご覧の通り、東京の日没時間かなり早く6時46分で、一方でパリは9時半で3時間近く違いがあります。パリでは夜10時ぐらいまで明るいので、家族連れで観光しているような姿も見かけることができるので、東京は観光の時間が3時間少なくなることとなります。先ほど田川さんも1日3時間という時間の話をしていますが、日没の時間で夜の時間、明るい時間が3時間少ないというのは夜間観光の消費にとっては不利な点ではないかと思えます。

一方で、この違いを活かすことを考えると朝の時間が早いということになります。4時49分には日の出になっていることを考えると、5時台であれば地下鉄等公共機関が動いていることもありますので、「ナイトライフ」という言葉とは異なりますが、朝の時間の活用も考えていいのではないかと思えます。

朝の時間の活用の他国の例を紹介するとニューヨークではMoMAやメトロポリタン美術館、ローマではバチカンの美術館では、開館時間の前に特別なツアーを提供しています。これらは朝の時間を活用するだけではなくて、VIPツアーという形で人数を限定して料金を上げたツアーの提供をしています。朝の開館時間をいきなり2時間早くすることは難しいと思いますが、こういった限定的なツアーというような形でまずは試験的に実施して、需要が見込めれば恒常的に開館時間を早くすることもできると思います。

もう一つは東京は広いということです。ナイトライフ観光では深夜の公共交

通機関やタクシー料金が低いという課題が語られますが、東京は広いので例えば銀座で歌舞伎を見て御飯を食べて、新宿のホテルに帰るのにはやはり遠いなというところがあります。

そのため長期的には、例えばニューヨークのブロードウェイとタイムズスクエアや、ロンドンのピカデリーサーカスとウエスト・エンドのような形で、歩ける範囲に観光やレストラン、宿泊施設の全てがあってそのエリアで完結できる街作りをすることは理想的だと思うのです。それがすぐにはできないにしても、例えばイベントの開催場所を可能な限り多くの外国人観光客が宿泊しているホテルのあるエリアの近くにするとというような工夫はできると思います。

あとは、海外のツアーコンダクターが提供していますがホテルの送迎をツアーとかイベントに合わせては販売することもできると思います。いきなり電車やバスを24時間営業にするのは難しいと思うので、例えばこういった取り組みをする事業者をサポートしていくことからはじめてみるのも良いのではないかと思います。

最後にまとめますと、東京には観光コンテンツに関しては今でも十分あるものはあると思いますし、海外の事例を参考に日本で同様な観光コンテンツをすることでさらに改善できることがあると思うのですが、同時にやらなければいけないのは、それに気づいてもらい、さらに簡単に購入できる流れを作ることです。

オンラインでの対応は比較的まだまだ改善の余地があると思いますので、この点に関して、ぜひ進めていただくような支援をしていただけるといいのではないかと思います。

ありがとうございます。

【本保座長】

どうもありがとうございました。

1つだけ私からもコメントいたしますが、朝の時間の問題が全体として抜けているというのは、ここで大きな課題だと思うのです。ピーク対策ということからも、例えば京都でも朝の時間に非常に力を入れた取り組みをしているのですが、ちょっとその辺が抜けたところかなと、私も思っているところでございます。

それでは、これから議論に移りたいと思います。

どなたからでも、どうぞ。

【玉井委員】

お二方のプレゼン、ありがとうございました。非常に示唆に富んだお話でありました。

私はホテル時代、ナイトライフに関して幾つか仕掛けをしたことがあります。このビジネスではマーケットセグメントがポイントになります。観光客か、ビ

ビジネス客か、あるいはファミリー客なのか、団体なのか、個人なのか、それぞれのお客様は何を求めているのか。

当時は総合シティーホテルでのナイトライブイベントは、あくまでスポット的なもので、オールナイトのディスコパーティーですとか、カジノパーティーあるいは少し変わったイベントとしてヨーロッパのオペラボールというのがありますね、あれを模擬的にホテルでやったこともありました。これ等はあくまで個別のスポット対応ですが、他方ファンダメンタルズとして地域全体をどう関連付けていくかというのは、やはり大きく違ってくると思うのです。

今、座長からも朝の時間帯というお話がありました。実は私は、オールナイトのイベントを仕掛けてつくづく思ったのは、日本人のライフスタイルは夜型ではないという事です。例えばオペラボールをやったときなど、20時ぐらいから食事が始まり、23時過ぎぐらいからダンスタイムになるのです。そして朝の4時、5時まで、70代のご年配者まで延々と踊られていました。ほとんど外国の御夫妻でしたけれども、多分、日本人の感覚とするとそういう概念はほとんど無理だろうなど。

これを一気に変えるというのはなかなか難しい。スポット的にそういうことを仕掛けながら、こういう文化もありますよという啓蒙や体験をとおし、先ほどお話にあった異日常を、どのように地域社会に浸透、理解していただくか。それには、やはり一つずつ丁寧にやっていく必要があるのだろうなとつくづく思いました。

当時は今から十数年前でしたから、やはり風営法等もかなり厳しくて、いろいろな問題がありました。今は風営法も少し緩和されましたので、この点はいろいろな意味で、スポット的にはかなりやり易くなってきたとこととと思います。ただ、異日常の理解という視点で地域社会を巻き込んでゆくには、総合的な視点から、一つずつ細かく丁寧にやっていく必要があると思います。

もう一点、施設的な視点です。今、都心ではいわゆる総合シティーホテルという形態にはほとんど投資できなくなっています。私が携わったホテルでもやっていたのですが、ライブショーとかマジックショーとか、多様なイベントを一か所で楽しめる、そういう場所が減少しています。それにかわる場所をどういうふうにつくっていくのか。もちろんこれはIRとも非常に密接に関係してくると思うのですが、こういう施設的な問題も含めて検討していく必要があると思います。

【本保座長】

どうもありがとうございました。

今、玉井さんがおっしゃったことの1つは、先ほど田川さんのプレゼンにもありましたけれども、やはり単発ではなく総合的な取り組みをしなければだめだということですね。

【玉井委員】

単体でもやれることはありますが・・・。

【本保座長】

いかがでしょうか。

マリさん、どうぞ。

【マリ委員】

私もトリップアドバイザーのヘビーユーザーですので、でも、どちらかという海外で使うことが多いのですけれども、とてもいいのは、トリップアドバイザーでお願いすると、海外の場合は時間でツアーをしてくださる方を申し込むことができ、それも全部インターネット決済ができて、どこどこで待ち合わせしましょうということのやりとりをすると、向こうで待っていてくださって、町案内をしてくれる。

日本の場合、恐らく、こちら側の受ける側の人数がまだ足りないのではないかと思います。それと、英語のできる方が少ないだけに、うまくそこが稼働しているのかどうか、もちろんトリップアドバイザーに聞かなければいけないのですけれども、どうなのかなと思うのです。

今、幾つかお話がありましたように、総合的にということもすごく大事だと思うのです。ただ、中には単体でできることが幾つかあると思うのですけれども、例えば外国人が日本に来たときの電話の問題。テレフォンを自分の外国のものが日本で使えていないということがとても大きな問題で、SIMカードを日本で買って自分の携帯電話につなげても、外国のようにうまくいかないということがとても大きなネックだと思うのです。そういう方々がもっとインターネットを自分が持ってきた携帯電話で使えるようになると、今度はWi-Fiがなければできない。Wi-Fiがないところが非常に多いので、Wi-Fiの場所を見つけるのが大変。ですから、もうちょっとそこを一本化できるようにしてくれるといいなと思うのです。

もう一つは、例えば東京のど真ん中の銀座なのですけれども、ナイトライフとはいったものの、夜9時以降でしたかしら、銀座の真ん中でタクシーに乗れないのです。手を挙げてもとまってくれない。何でとまってくれないのと、いろいろ聞いてみましたら、タクシーの業界の規定があって、とまってあげるとほかのタクシー会社が通報して、それで自分が運転できなくなるからと。やはりお客様はお客様で、どこでも手を挙げたらタクシーにとまっていただけのようにしなければいけないので、これも少し行政とタクシー業界とのお話をしたいと思うのです。

もう一つ、私は国立博物館の評議員をずっとやらせていただいていたのですが、いつも申し上げていたのは、夕方5時に、今は金曜日と土曜日はあけているものの、ビジネスマンをもものすごく逃しているのです。なぜかという

と、ビジネスミーティングは大体朝食、7時とか8時からスタートするビジネスマンが多いのです。せっかく日本に来たのに、ビジネスで来て、だけれども、文化が好きなので日本の美術館・博物館を何とか見たいと思うときに、会議中の時間だったら抜けることができないわけですから、本当に早朝に1～2時間でもいいから美術館を見て、それから会議に入る。会議が終わってから、夜の9時、できるならば10時ぐらいまであけていてくだされば、翌日、自分の国に帰るのだけれども、ショッピングはできない。ドンキホーテに行けばいいかもしれないですが、ビジネスで日本に来ているのに、全然観光ができないということが非常に大きな問題で、彼らが観光してくれれば、家族を今度連れてこようかなというきっかけにもなると思うので、そういう細かいところをもう少し、一個ずつクリアしていただけると、そういうものが自然に円滑化して、広がり在那里で出てくるのではないかと思うので、やれることを少しずつやっていたらいいなと思うのです。

【本保座長】

ありがとうございます。

SIMカードの問題は総務省の問題で、ちょっと都の取り扱いを超えているかもしれませんね。

【マリ委員】

うるさく言えば、もしかしたら。

【本保座長】

あちこちがうるさく言っていて、変わっていない問題の一つなのです。

どうぞ、お願いします。

【石井委員】

短いながらも大変充実したプレゼンテーションをありがとうございました。照明のほうからは、ナイトライフは専門とは言いませんが、大変関係しておりますので、大変興味深く伺いました。

まず最初に、牧野委員から、日本は日没が早いのでディスプレイアドバンテージだというお話がありましたが、明るくないとナイトライフができないわけではなくて、照明を楽しむという意味では、早く暗くなってくるのは大変結構なことだと思っています。私がふだん生活しておりますパリは、おっしゃったように夜10時ぐらいまで今は明るうございますので、例えばこの間、パリ祭の大きな花火大会なども、夜11時から始まるのですね。そこに大変な人が来て、その後、三々五々とどうにか帰っていく。そういうイベントが暗くなるのを待ってでも行われている。そういう土壌がある町もあることを鑑みると、東京も、逆に暗いことをうまく活用して、都のほうも力を入れていらっしゃると思いますが、イベント的なものとか、ライトアップを見るツアーとか、そういうものが活用できる資源としてあるということの一つ認識できるのではないかと思います。

おっしゃるように東京は大変広うございますので、ツアーも難しいのですけれども、例えば東京のいいところは、逆に、地区ごとの表情に非常にバラエティーがあるということで、例えば1晩目は渋谷で遊んでいただいて、2日目は下町のほうで遊んでいただくとかいうようなコントラストを見せる。これは東京都がやっていたら「Old meets New」というコンセプトとも合致しますので、2晩にわたったようなコントラストを見るツアーみたいなことも、長期滞在していただく方にはちょっとおもしろい目玉になるのかなと思いついておりました。

それから、日本でやっているかどうか知りませんが、国際的な携帯電話の商業で、香港に旅行に行った女性が時差で眠れないというシナリオで、眠れなくて、ヨーロッパかアメリカから来た方なので、自分のホームタウンに連絡をして、眠れないよとかいうメールをしているのですね。はたと思いついて、その携帯を持ったまま外に出かけて、一晩中遊んで、本当に眠くなってく明け方ぐらいにホテルに帰ってきて寝る。最初は眠れないよといって香港の有名な夜景を写真に撮って友達か何かに送るのです。1晩遊んで満喫して帰ってきて、明け方の香港の超高層をまた撮って送って、きょうは楽しい観光をしてきたよというのが完結するという、大変おもしろいシナリオの商業がありまして、これは日本ではなかなかできないな、残念だなと、そのとき思いついておったのです。

インフラとして整備することは難しいと思いますけれども、メンタリティーとして、結局そういうインバウンドの方がふえるということは、時差で24時間いつでも出かけてしまうかもしれない人がたくさんいる状況をつくり出すわけですので、何かおもしろい仕掛けが一つ二つでもあれば、そういう人たちは集中的に行くと思うのです。例えば、朝すごく早く起きて魚河岸に行きたいという人口は必ずいるわけで、今はもう大変な行列で、行かれないぐらいの人気なわけですけれども、それもやはり時差だから行けたりする方も多い。

日本人がなかなか外に出かけないというのは、それもまた改善していただきたいと個人的に思って、いろいろなところで夜遊びに行きましょうと声高に言っておりますが、海外から来た方は、時差をうまく活用したツアーというのもできるのではないかなと思った次第です。

【本保座長】

ありがとうございます。

どうぞ。

【アレックス委員】

私はどちらかというと、ナイトライフそのものをわざわざ探しに行って楽しむタイプではなくて、町をぶらぶらするのが好きなのです。ちょうど6月にウィーン、プラハ、ブダペストを旅行しました。いつものことですが、ヨー

ロッパへ行くと、街角に出ているというか、歩道に出ているコーヒーショップとかバーとか飲み屋が山ほどあるのです。裏路地を散策しながら、そういうところが見つかったら、座ってちょっとビールでも飲むとか、そういうことが非常に楽しい。また、いつも行っているバンコクも、そうしたストリートライフが非常に活発で観光客に人気です。

わざわざ調べて、どこかへ行ったりするほどの熱心さはないかもしれないけど、歩いていると、ぽつんと入りたいところがあるのですね。その意味でのナイトライフは、東京に限らず、日本の多くの町で整っていない気がして残念です。

いろいろな規制があるので、ひょっとしたらその辺を規制しているのは警察なのですかね。しかし、一年中とかいつでもということは難しいかもしれないけれども、例えば特区的に夏の期間だけとか、ましてオリンピックの間はそういうことがある程度許容されても良いと思います。あと、グーグルで調べれば見つかると思いますが、例えばウィーンにミュージアム・クォーターという、大きな広場の周りに現代美術館が二つ三つも並んでいるところがあるのです。その中にすごく居心地のいいプラスチックソファみたいなものがあちこちに置かれていて、世界中の人々が楽しんでいるのです。若い人たちが多かった。別にお酒を飲んでいるから暴れるとかということもなく、まあまあ静かで気持ちよく、周りの美術館がすばらしくライトアップされているところもポイントの一つだと思います。そのようなことは、東京で使われていない広場、もちろん上野、この都庁前もまさしくそうですね。そういうところにちょっと飲んだり、軽食を食べられるようなところがあると、楽しみ方も変わると思います。

規制のことですから、警察などとの交渉はあるのでしょうかけれども、それは一つのポイントではないかと思います。

【本保座長】

どうもありがとうございます。公道の活用の問題を指摘されたと思うのですが、けれども、田川さんのプレゼンにもあったところなのですが、なかなか警察との関係、道路管理者との関係は難しく、思うとおりにできていないというのが現状で、まさに制度問題だからこそ行政が取り組むべき課題だと私も思うところです。また、それができないと、恐らく石井さんのおっしゃる長い夜というせっかくの資産の活用につながらないですね。

どうぞ、お願いします。

【根木委員】

田川さん、牧野さん、すばらしいプレゼンテーションをありがとうございます。なるほどというところばかりだったのですけれども、まず、私が今感じているところは、本当に2020に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されるという一つの契機であって、スポーツという観点で話をさせてもらおうと、私

は元々関西在住なのですけれども、私の知り合いが大阪のほうでバスケットボールコートを運営しているのです。それは夕方からやっています、夕方の時間、子供たちが学校が終わってからそこでバスケットボールを、部活が終わってから来る子もいるし、部活に入っていないけれどもバスケットボールをしたいと、バスケットボールの専用コートなのですけれども、やっています。

その辺は本当に限りなくフリーに使えるようにしているのですけれども、実は夜中から人がわんさか来て、12時を回るところに人がピークになってくるというのです。私も現役を終わってから、実は長年それをされていたのを知らなかったのですけれども、現役のころにそれをやっていたら、私は熱心に練習していてもっとうまくなっていたのかなと思うのですが、実はそういうニーズはたくさんある。実際、体育館の利用は制限があるので、夜中にやっているところがないということで、朝方までそこでいろいろな人たちが来ている。本当に会社ぐるみで終わって残業してから来る人がいたりとか、夜の新しいコミュニティーができて、そこで人が集まってきたりとか、実はプロの選手もふらっと来て、やりたいときにスポーツをしたいということがあったのを、私はあることで知ってびっくりしたのですけれども、私も完全にそれにはまった一人でありました。

そういうところでいくと、海外からの旅行者の方も、先ほどあったように、日本に来ていただいて、時間を惜しむように何かを体験とか観光したいと思われると思うのです。そうすると、体験でいくと施設の活用、運営方法というのが一つの課題にはなってくると思うのですけれども、そういう体験プログラムなどもいろいろ工夫できるのかなと思います。

個人的に、なかなか体験のないスポーツでいくと、パラスポーツの体験などはぜひやっていただけたら、これは一つ発信できる。世界的にもパラスポーツの体験を夜中にやっているところはないかと思うのですけれども、例えば車椅子バスケットボール、ボッチャ、いろいろなものに興味を持っていただけたりするのかなと思うので、そういうものもいいと思います。

もちろんそれはすばらしいし、あとは田川さんが言われていた町の井戸端会議という、これもすばらしいなと思うのです。これは本当に東京だけではなくて、私も地方にいろいろ行く機会があるのですけれども、商店街が早く閉まっているところを見て、すごく残念な寂しい思いがあるのですが、使っていないのだったら、逆に、自由に使える空間がそこにいっぱいあるのだなと考えたときに、そこに住んでおられる方々のナイトタイムの活用になるのかなと思います。

あと、一番は、これほど治安がいいところはないですよ。夜中にふらっと出てもすごく安全で、なのに、そこで行く先がないというのは非常にもったいないと思うので、そういうものを新しくどんどん作り出していけたらなと思

います。

以上です。

【本保座長】

ありがとうございます。12時過ぎから盛んだというのはすごいですね。

【根木委員】

私もびっくりしたのですけれども、遅くなればなるほどどんどん人が集まってきた、逆にそれで寝不足にならないのかなと思うと、やはりリフレッシュできたりとか、次の日はお休みであったりとか、それは皆さんが工夫するという事で、これも非日常なのかな。やっていること、スポーツ自体は当たり前に行っているけれども、それを夜にやるということの新たなテンションがあったりとか、そこに集まってくるコミュニティーができてきているというのを、そのスポーツ、バスケットボールを通じて、1人でふらっと来られる方もいたり、もちろん団体で来られる方もあるのですけれども、そこでみんなが集まっているという感覚。これはスポーツ以外でもひょっとしたら、工夫すればそういうものができるのかなと。それが、みんなで歌を歌うのか、ダンスをするのかというところとも同じなのかなと思いました。

【本保座長】

いかがでしょうか。

伊達さん、お願いします。

【伊達委員】

田川さんと牧野さん、大変参考になる資料を出していただきまして、ありがとうございます。

改めてこうしてナイトライフを考えてみますと、やはり日没の問題というのは大変な違いがあるなと感じました。それは結局何を意味するかということ、日没のあり方の違うヨーロッパと比較して日本で同じことができるわけではないということを理解して、どうするかということを考えなければいけないと思います。

1つは、そもそも海外に行きますと、6時、7時に食事をするというのは早過ぎる話で、デイトタイムに観光をして、夕方に少し涼しくなってまた観光をして、さらに夜は8時以降に食事をしようとなっており、普段そのような生活をしていない日本人の感覚でも海外に行けば対応可能ですね。夜6時、7時ぐらいから暗いという中で、長い夜の時間があるということをつかえて、どこまでコンテンツをつくる戦略とするのかを考えなければと、思います。

ただ、今年のようにこれだけ暑いと、日中はとても外に出られないので、そもそも夜に観光するほうがいいよねと、いう一つのライフスタイルにしやすいかもしれませんし、日常の日本人の生活の中でも、もっと朝早く会社に行って仕事をしようとか、通勤時間をずらすような、サマータイムの発想でいいと思

うのですけれども、そういったライフスタイルのあり方そのものを変えながらグローバルなタイムスケジュールに合わせていくというのも、もう一つの方法ではないかと思えます。

2点目として、トリップアドバイザーさんの資料の外国人から見た日没後の人気の観光スポットやナイトスポット施設として、ロボット、マジック、コメディショー、その次にフードツアー、パブツアー、カートとなっています。全くもってここには日本の歴史的な文化というものはないのだなというのが一番の感想でした。それは現実どうなのでしょうかとというのが牧野さんへの質問なのですけれども、ここで問題になるのは、結局、海外の人が本当は何を求めているのか。

それから、ほかのヨーロッパの施設を見て、クルーズであるとかそういったものは人気があるのだけれども、それが同じように日本に求められていると捉えるべきなのか、それとも東京なり日本なりが自分たちのブランディングを考えて、日本文化のコンテンツをもっと売る、楽しんでもらうことを考えるのかというのも一つの戦略として、どちらか一方なのか、もしくは両方をどう狙っていくのかを考えてはどうでしょうか。

3点目として、田川さんが、外国人が夜は全くもって楽しくないと言っている、日本人も楽しくないねとおっしゃっていたことについてなのですが、私は、申しわけないですけれども、夜に限らず昼もそんなに楽しくはないのではないかと思います。例えばミュージアムが他国と比べて安いですね。では、高くすればいいわけではないですよ。高くして、それに見合ったコンテンツを提供すべきです。展望台についても、海外、ニューヨーク等とこれからまた新しいものがどんどんできてくるはずですが、そこにはさまざまなエンターテインメントが盛り込まれていて、仕掛けというものがあって、どうやって楽しませるかというのを戦略的に練っている。ただ上って見ればいいわけではないということを見ると、どうやって楽しませてあげるか、楽しませるためのコンテンツを、開発していく戦略も必要です。

では、お客さんにとって、ツアーする方にとって何が楽しいと思えるのか。それ自体が海外の人から楽しければ、日本の方も当然行くはずですよ。コンテンツを考える基本に立ち戻ったほうがいいのではないかと思います。デイタイムが楽しければ、夜も楽しみたいので、もっと長い時間有効活用しましょうという話になるのではないかと思います。

もう一つ、IT関係の話があったと思うのですが、数年前からWi-Fi環境が整っていないことは大変ネガティブな要素としてでています。これは東京都さんに対する質問ですが、大分変わってきたかとは思いますが、どのぐらいの環境が整ったと思われていて、もしくは2020年までに100%になるのですかという質問があります。

一方で、Wi-Fiが整うところまではもう当たり前であって、外国人から見た課題としてさまざまな決済の問題、予約の問題、インフォメーションの問題、それらも全て結局はITを活用すれば解決する話だということを考えると、観光インフラとして観光IoTというものを東京都として早く進めるのかというのが一番重要なのではないかと思います。本来、インフラが整えば、そこを利用するコンテンツ商品というものは、ビジネスが成り立てば改良されていくのですから、民間が努力してつくってくれるはずで、そこにいろいろなサービスの方がいらっしやって、情報をつないでくれるであろうと思っています。

ですから、実はナイトライフというのを全体論で考えなければいけないというのは、まちづくり論だけではなくて、IT技術も含めて、東京都の観光IoT戦略の中で総合的に捉えて結びつけていただきたく、かつ期限を切ってやっていただきたいと思いました。

【本保座長】

ありがとうございました。

Wi-Fiあるいは決済、IoTに関しては、事務局からお答えをお願いしたいと思います。

それから、牧野さん、外国人が日本に対して求めているもの、あるいは外国に対して求めているものに差がどうあるのかということについて御質問がありましたので、お答えいただけますか。まず、牧野さんからお願いしてよろしいですか。

【牧野委員】

御質問いただいた点に関して、2点あると思います。まず現状、外国人が日本に来て楽しんでいるものに日本らしさがないのではという点ですが、日本らしさはあると思います。世界的に町をめぐるツアーは人気がありますが、その形態が国ごと、都市ごとに違ってきます。例えば、日本だからこそマリカーのようなキャラクター的なものになっています。一方で、他の国に行くともた違うその国独自の乗り物だったりします。町巡り、という形式は同じなのですが、その中身が自然と日本的になり、例えば居酒屋に行ったりとか、お好み焼き屋に行ったりとなるわけです。そうして日本を楽しんでいるので、日本らしさがないということではないと思います。

また、海外で人気のものについて御紹介させていただいた、展望台やクルーズに関してです。こちらは確かにそのまま輸入すればいいのかという問題はあると思うのですが、今、お話した通り、日本でやる際には自ずと日本らしさが出てくるのではないかと思います。今回ご紹介したのはアメリカだけで売れているものではなく、それぞれの観光地の全体の傾向として楽しまれているものですので、まずは東京でも試してみたらいいのではないかと思います、御紹介させていただきました。

日本らしさを考えて提供したとき、それは必ずしも海外の方が楽しめるものではないと思います。まずは海外で人気のある観光コンテンツを提供してみて、うまくいかなかったらやめてみて、さらに日本らしさができるものがあればテストするというふう試行錯誤していけばいいと思います。海外で人気のものをやってみるのも一つの方法としていいのではないかとということで、御紹介させていただきます。

【本保座長】

ありがとうございます。一言だけつけ加えますと、日本のブランドイメージについてはいろいろな調査があり、いろいろな答えがあるのですが、割合共通しているのは、ハイテクイメージが非常に強いんですね。それが多分、ロボットバーみたいなものにあらわれているところがあると思います。他方で、日本の伝統文化に対する関心とか、現実のものというのは極めて少ない。そういうのがちょっとあらわれているのかなという感じは、私もするところがあります。

済みません。事務局はいかがでしょうか。

【鈴木観光振興担当部長】

先ほどの御質問の関係で、2020年大会に向けて、訪日外国人の方がまち中を歩くときにいろいろな情報を提供する環境をつくっていくことは非常に重要でして、それで今、私ども東京都では、2020年をまず一つのターゲットにしまして、例えば案内標識であるとか観光案内所みたいな、こういったいわゆる物理的なものから、今、話題に出ましたWi-Fiの環境とか、例えばまち中にデジタルサイネージみたいなものを設置する。そうしたものをやりながら、外国人の方が特にたくさん訪れる地域につきましては、おおむね2～3分の徒歩圏内に必ずそうした情報が提供できる場所を漏れなくつくっていきたいということで、この間取り組んできております。

当然、Wi-Fi、デジタルサイネージ、案内標識、いろいろ設置するには物理的な制約とかもあります。なるべく外国人の方が多く集まる地域についてはすき間ができないように、そうした取り組みを進めているところでございます。特にWi-Fiにつきましても、今、東京都が、案内標識にWi-Fiの機械をつけたり、例えば電話ボックスとかそういったものも活用しながらふやしておりますし、また、ここ数年、別の主体でもWi-Fi環境はどんどん進んでおりますので、都が自分でやること、また民間でのいろいろな取り組み、そうしたものも含めてトータルとして、まずは2020年に訪日外国人の方が来たときにそうした情報をとるのに不自由のない環境に少しでも近づけるように、今後とも取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

【本保座長】

伊達さん、よろしいですか。

【伊達委員】

Wi-Fi環境はスポットスポットで整えていくと、皆さん非常に喜ばれると思いますが、その先、どうなのですか。デジタルサイネージの時代なのでしょうかね。Wi-Fiの結果、皆さん必ず持っているであろうスマホの中にポータルサイトがあり、見られる情報があり、自分がどこにいて、どう見られるかということの時代になってくると思いますので、本来はそれは民間がやるのかもしれないし、東京都自身がオリンピックそのものを含めてポータルサイトをつくられて、そこで何をどうしたらいいか、ワンアクセスでわかるという時代なのではないかと思います。

その上で、デジタルで出てくるものはあくまで宣伝するもので、本来は、Aさんという人のニーズは、どうもこれから何とかの試合に行くし、その後はレストランに行くらしいから、その付近のレストランの画面が出てくるとか、そういう時代になってくるはずなので、そこまで連携する仕組みを行政が早くからやってくださると、東京のプロモーションになるのではないかと思います。

【本保座長】

ありがとうございます。

その辺も含めて、実際にやっていらっしゃる滝さん、いかがでしょうか。

【滝委員】

田川さん、牧野さん、ありがとうございました。

その後、皆さんのお話も全くもったもな話です。聞いていて、すぐやれて、それを評価する形にして、連携してやったほうがいいなと思ったのは、マリ・クリスティーン先生のお話。できることからやろうという中の、美術館・博物館、あるいは日本の歴史的な資料館みたいなものに対して、朝ちょっと早くあける、夜もうちょっと長くやるということ。ビジネスとの関係がありますので、ある程度奨励もしなければいけないと思いますし、Wi-Fiとスマホで情報をきちんと見られるということも結構大事なことかなと。

日本の食は非常に人気で、今、日本に来るのは食が楽しみということはありませんけれども、実は歴史的なものとか美術館などもそれなりに人気があって、京都で朝観光というのをお手伝いしたときに、結構成果につながりました。ただ、そこに日本の場合だと、朝がゆではないですけれども、そういう食もくっついていこうと成果が出る。夜も同じだと思うのですけれども、中華街なども9時ごろに閉まってしまって、周りの美術館・博物館、歴史的な公園も含めてもったいない。公園の活用も少しおこなっているのかなと思います。公園にレストランが入って、あるいはキッチンカーも入ってというようなことで食が加わる中で、近隣の美術館が朝ちょっと早く、夜は遅くまで開いているということが、本格的な観光を楽しむ人に評価されるようになる気もしています。もう一つ、やはりパラ絡みのところでは、車椅子でも絶対に入れるとか、その

ような正確な情報を充実しなければいけないのと、それを見るためのWi-Fiの整備というのが大切だと思っています。

伊達さんがおっしゃったように、デジタルサイネージは広告的なプッシュのメディアで意味があると思うのですが、今はスマホ上の情報が充実していれば、結構それで皆さん情報をとれるようになるのではないかなど。そんなことで感想の域を出ませんけれども、私の思うところです。

【本保座長】

ありがとうございます。アトキンソンさん如何でしょうか。

【アトキンソン委員】

済みません。幾つかあります。

話はいろいろわかりましたけれども、1つは、「GO TOKYO」の観光のホームページを先ほど見てみましたら、ナイトライフに関するページ数は6ページで、今、ライブされているページの数で2,150ですので、0.33%となっています。注目するのはいいのですが、有言実行でやったほうがいいのではないのという感じがしないでもないです。

もう一つあるのは、確かに去年、コンサートだとか、そういうもののロンドンとかニューヨークにあるチケットが実際に買えるような場所があったほうがいいのではないかという話があったのですが、その後どうなっているのかというのは全然進んでいないように見えるのです。ポイントになってくるのは、2003年から始まりましたナイトタイムエコノミーのナイトメイヤー制度が全世界に広がってしまっていて、2016年にナイトメイヤー制度の初めての世界大会があったのです。2016年10月にロンドンも設けてしまっていて、去年ニューヨークも設けていますけれども、いろいろなナイトライフの経済をどうやって実行していくのか、活発にするのかということで責任者を設けて、その人に責任を委託して、先ほどアレックスさんがおっしゃったような警察との交渉をどうするのかというのはロンドンのナイトメイヤーが担当して、割とクラブの問題であったり、いろいろなそういう問題を解決して、なおかつ観光客と国内の人たちからいろいろな情報を全部吸い上げて調整していつているような形になっています。先ほどの主な観光都市のところで見てもみましたら、上位に来ているところはみんなナイトタイムのメイヤー制度をつくっていますので、こういう会議でいろいろなことを言うのはいいのですが、誰が実行するのかという問題があるのではないかと思います。

もう一つですが、調査の話がありました。調査のところ、今、東京都内で外国人はどこに行っているのかと、こういうデータのとり方が一般的ではありますけれども、ほとんど無意味なデータ調査だと思います。トリップアドバイザーを見ればどこに行っているのかというのはすぐわかりますので、調査するまでもないと思います。一番は、大きなナイトタイムエコノミーになっ

ていない以上は、海外にあって日本にないもので何をつくっていくのかということ調査分析したほうがいいのではないかと思います。

要するに、先ほど文化の話がありましたように、今、誰がどこに行っているのかというのは、それは何が提供されるのか、何が供給されているのかということがその分析の結果としてわかるだけですので、ある意味で既に供給されているものはどこまで効果的なのかということを確認しているだけなので、発展性のない話です。そういう意味では、ないものは何なのかということ进行分析したほうがいいに決まっていると思います。

それと関連しますけれども、今、観光庁では、分析するのはいいのですが、実行していかなければただ単に知識にとどまってしまうので、インキュベーター制度をつくっていきまして、補助金を出しています。ですから、分析の結果、こういうものがない、こういう会社がない、こういうサービスがない。例えばオンライン化されていないものに対して、海外にあるもの、日本にないものを全部ピックアップして、補助金という形でそれを出して、そういうものを民間につくってもらうようなことをしています。分析をして終わってしまうということであれば、それを生かすためには、やはりそういうインキュベーター制度を、国のアイデアに倣ってやっていくのもいいのかなと思います。

もう一つありますのは、先ほど伊達様から御指摘がありました文化のほうなのですけれども、これも最近、日本政府、観光局がやっているグローバルキャンペーンから得た情報では、言うまでもなく、男性、女性、年代別で全部見てみますと、興味が全然異なっていますので、そういうところをもう少し生かして行って、どういう属性であればどういう興味があるのかということをやっていくべきものだと思います。

確かに本保さんがおっしゃるように、総じて言えば、言われるほど日本文化には外国人は興味がないということはわかる。要するに、興味のある人は興味がありますけれども、過半数ではないということはよくわかっていますが、かといって、やはり女性、男性、年代別によってそれは全然変わっていますので、どういう人に対してどういうものを提供するのかということをもう少し総合的というか、総論的にどうだというよりは、各論的にやっていくべきものではないかと思うのです。

確かに東京都では、日本政府、観光局ともう少し連携して行って、国のほうで収集している情報を生かしていくというような話はあったかと思います。私は日本政府観光局の特別顧問をやっていますけれども、余り東京都との連携の話は最近聞いていませんので、極めて貴重なデータや分析調査の結果がそこにそろってきていますので、みずから調査する東京独自のものもあるのですけれども、国がせっかくやっていると重なったものを出すのも余り意味がないので、また今年度、もっとJNTOとの連携を強化していったほうがいいのかな

という気がします。特にナイトタイムエコノミーというのは、この間、観光庁が膨大な時間をかけて、そういう委員会もやりましたし、徹底的に分析と調整をやっていますので、それを活かす価値は非常に大きいと感じます。

以上です

【本保座長】

どうもありがとうございます。一々御指摘はごもつともだと思います。

御指摘あるいは御意見の部分もちろんありますけれども、1つは調査について言及されるところがあって、次回以降、調査結果が発表されることになっていますので、今おっしゃった点が調査に反映されるように、これは事務局にお願いしたいと思えますし、アトキンソンさんがおっしゃったことの1つは、単に都が調査してその結果を示すだけではなくて、他の機関がやっている情報なりその結果もうまく反映させて総合的に示すべきだという理解でよろしゅうございますね。

【アトキンソン委員】

はい。

【本保座長】

では、そんなことで考えいきたいと思います。

いろいろ御意見をいただきましたが、そろそろ時間でありますので、ここで締めくくりをしたいと思えます。

いつもですと、知事がいらしてすばらしい締めくくりをされるのですが。

【田川委員】

ちょっと一言いいですか。デービッドさんが言ったように、確かに今、観光庁でナイトタイムエコノミーをやっているでしょう。基本的にみんな地方の話なのですよ。今、国の政策は地方へということを行っているではないですか。だから、東京とか大都市のことは余り言わないのですね。実は今、例えば博多の屋台とか、札幌とか、地方都市のほうが参考にすべき文化がたくさんある。東京が一番、先ほど大きいというのがあったのだけれども、それをどのように分解するかということもあって、大丸有とか、銀座とか、日本橋とか、新宿エリアとか、掲載しているのが余りにも多過ぎて書き切れないのだけれども、そういう意味では東京をもう一回地方だと考えるのがまず1点。

もう一つ、東京に対するイメージですけれども、東京オリンピックがあった1964年に戦後復興で近代都市というイメージができていますね。東京は歴史観がある町だというのは思われていない。ところが、ことしは明治150年。世界に江戸260年と明治150年をPRしていないから、江戸文化が花開いた後に近代文化が発生したという歴史観について余りPRがされておらず、ホームページにも全く出ていないので、そういうことをまずやることによって、近代都市でもあり、歴史文化都市でもあるということをしかりとデータとして示す必要

があります。これは先ほど小池知事がおっしゃった150年という節目なので、そういうことをきちんとやるのがインフラの整備だと思うのです。その上で、先ほどちょっと申し上げたまちづくりとかイベントづくりというのをやらないと。

それから、先ほど言った時間と四季、こういう縦軸と横軸をもう一回整理する必要があるので、やはりこれから2年間、ワールドカップラグビーと東京オリンピック・パラリンピックがあって、大変なテスト期間なのですね。このときに抽象的な話をしないで、これとこれとこれはやるというふうに決めて、そういう意味でテストをする。だから、分析よりも具体的に実行してほしい。

私は今、東京観光財団の副理事長をやっていますが、そういう組織があるので、そういうところで皆さんから要求のあったものについて幾つか、ワールドカップラグビーとオリンピックのときに実際にやってみる。オリンピック期間中に公園を使って何かやると、私も、お正月には日比谷公園でそういうイベントをやったらいいと思いますが、そういう具体的な例をぜひ進めてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

【本保座長】

どうもありがとうございました。

簡単にまとめれば、いろいろな御提案がありましたけれども、とにかく総合的にやらなければいけないので、きちんと総合的な取り組みをしてほしい。他方で、全てが一遍にできるわけではないので、できるところからきちんとやってほしい。それを具体的に示してほしいというお話であったと思いますし、特に博物館の開館時間など、行政のリーチでできることについてはさっさと明確にやっていただきたいと、こんなお話であったのではないかと思います。

最後の田川さんの御指摘を受けてですが、確かに東京も一地方として認識し、自分の特性を示してその中で取り組んでいくということが非常に重要だと思うのですが、同時に、東京はこれだけの資源を持っていて、ある意味では夜間観光では最大の資源を抱えているところであり、能力も持っているわけですから、少し東京が中心になって各地域と連携して夜間観光を推進していく。こういうイニシアチブをとっていいのではないかと考えているところでございます。

以上、時間でございますので、きょうのところは議論を終わりにしたいと思いますが、他方で、前回、特にマリさんからボランティアについていろいろなプレゼンをいただき、都としてこれに対してどういう取り組みをしているのか、あるいは宿泊施設の取り組みについても少し説明してくれということをお願いをしておりましたので、事務局のほうから簡単に、その点の説明をお願いいたします。

【鈴木観光振興担当部長】

承知しました。前回、第1回の有識者会議において、まずは宿泊施設のバリ

アフリー情報の発信の重要性について御議論いただきました。本保座長からも御指示頂戴しまして、東京都が現在ウェブサイトで発信している都内の宿泊施設のバリアフリー情報が、今、どんな発信をしているかということについて整理させていただきました。

今、モニターに出ているように、東京の観光公式サイト「GO TOKYO」、また、都が実施していますバリアフリー助成金の活用事例、別途福祉セクションでやっていますとうきょうユニバーサルデザインナビ、現在この大きく3つのウェブサイトがございます。ウェブサイトの目的であるとか掲載施設数、対応言語は、それぞれ異なっております。

次のスライドに行ってくださいまして、これはサンプルでございますけれども、「GO TOKYO」では全部で110の宿泊施設ごとに、こういった基本情報であるとか、次のスライドをお願いします、いろいろな提供サービスのほか、ユニバーサルデザインとして、例えば左から2列目の下にございます「車いす利用者などの利用に配慮した客室あり」とか「車いす対応スロープあり」、こうした情報を全部で9言語で提供しております。

次のスライドをお願いします。この間、都のバリアフリー補助金を使って活用した事例については、過去の補助金の活用例の一部でございますが、全部で38施設について、いろいろ写真なども盛り込みながら御紹介しています。ただし、これは日本語のサイトのみでございます。

最後に、次のスライドをお願いします。これは東京都の福祉部署で運営しています、とうきょうユニバーサルデザインナビでございます。こちらは宿泊施設のサンプルを出していますが、宿泊施設に限らず、交通機関であるとか商業施設、レジャー施設、こうしたもののバリアフリー情報について出しております、それぞれクリックすると、各施設独自のウェブサイトのリンクを張る形で、どんな情報があるかということを提供しています。

前回の会議で各委員の方からいろいろ重要性について御意見も頂戴していますし、そういったものも踏まえながら、バリアフリー情報をどう発信していくかについては、今後、検討していきたいと考えております。

続きまして、ボランティアの関連でございます。こちらは「東京2020大会に向けたボランティアについて」ということで、現在の東京都観光ボランティア、また、その他のさまざまなボランティア、それと、2020年大会時の都市ボランティア、大会ボランティア、全部で11万人でございますが、この関係について改めて整理させていただいております。

次のスライドをお願いします。特に現在やっています観光ボランティアと都市ボランティア、大会ボランティア、それぞれの運営主体、活動内容、どうの方が応募できるのか、また応募の単位、個人かグループか、こういったものについて比較しております。

観光ボランティアは現在3,000人を超える人がおりますけれども、今後、大会時には都市ボランティア3万人の中核としての活躍が期待されておりまして、オリンピック・パラリンピック準備のセクションとも連携を強化して、やっていきたいと思っております。

大変簡単でございますけれども、現状について御報告させていただきました。

【本保座長】

どうもありがとうございました。

時間があればちょっと議論したいところですが、時間の都合で資料紹介にとどめさせていただきたいと思っております。

では、最後、事務局のほうにお返しします。

【小沼観光部長】

事務局でございます。次回の会議につきましては、10月または11月の開催を予定しておりますので、別途皆様方に日程等の調整をさせていただければと存じます。

本日、委員の皆様より御提案いただきました内容につきましては、今後の観光振興施策の推進に生かしてまいります。

事務局からの連絡事項は以上でございます。

【本保座長】

どうもありがとうございました。

以上をもちまして、本日の会議は終わりたいと思っております。御協力どうもありがとうございました。